

平成 24 年度の進捗状況（総括）

計画全体の進捗状況については、「概ね順調」以上の指標数が 9 割程度で、その中には、既に目標を達成した指標数が 2 つから 6 つに増加した状況も見られることから、昨年度と同様に、概ね順調に進んでいると考えられる。

また、分野別の進捗状況を見てみると、再生可能エネルギーの利活用による環境負荷の少ないまちづくりや、環境教育や地域における環境保全活動の推進、大気や水、音などに係る安全で安心な生活環境の確保などについては、目標に向け順調に進んでいる。

一方、ごみの発生抑制や資源の循環利用については、昨年度よりも改善は図れているものの、目標を達成するためには、今後、取組の充実や強化が必要である。

環境分野 1 地球環境

【状況】

- ・ 環境意識の高まりから住宅用太陽光発電システム設置費補助の利用者が年々増加しており、再生可能エネルギーの導入が順調に進んでいる。
- ・ 自転車走行区間の新規整備は、「自転車のまち推進計画」に基づき、順調に進んでいる。
- ・ 公共交通の利用者については、全国的に減少傾向にあるが、本市においては、地域内交通の導入等の取組により、歯止めがかかった。

【今後の方向性】

- ・ 温室効果ガスの排出量削減を目指して、引き続き、再生可能エネルギーの利活用や省エネルギー機器の普及を進めるとともに、公共交通ネットワークの充実や自転車利用環境の整備などの低炭素型都市の形成につながる事業を推進する。

環境分野 2 廃棄物

【状況】

- ・ 不法投棄については、地域住民による清掃活動やパトロールを実施したほか、引越し時期に合わせてごみの分別方法の周知をするなど、ごみの適正処理啓発を強化したことにより、不法投棄通報件数は、年々、減少しており、目標達成に向け順調に進んでいる。
- ・ 市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量は、平成 22 年度に実施した「プラスチック製容器包装」の分別回収により、大幅に減少したが、平成 23 年度から分別に関する協力度が低迷するなどの要因で増加に転じ、平成 24 年度も横ばいで推移している。

【今後の方向性】

- ・ 廃棄物による環境負荷を抑制するため、引き続き、不法投棄の未然防止に向けた取組を継続するとともに、市民の周知啓発徹底やルールへの指導、生ごみや剪定枝の資源化を検討するなど、ごみの発生抑制や適正な資源循環利用を更に推進していく。

環境分野3 自然環境

【状況】

- ・ 身近な景観の保全や自然生態系に配慮した河川整備を推進することにより、市民が身近に自然と親しめる良好な景観と水の環境が創出されている。
- ・ 一方、「生物多様性」という言葉の意味を知っている市民の割合は低く、身近なこととして捉えられていないことが伺える。また、都市公園面積については、全体の公園面積は増えたものの、その増加率を上回る人口の増加により、市民1人当たりの公園面積は減少した。

【今後の方向性】

- ・ 人と自然の共生に向けて、自然環境等に関する効果的な情報の発信や魅力ある公園づくりなど、適正な生態系の保全や自然を生かした都市の形成を更に進めていく。

環境分野4 生活環境

【状況】

- ・ 本市の生活環境は、公害関係法令の遵守や特定施設等の適正管理に係る指導徹底等を図ったことにより、良好な状態が保たれている。
- ・ 環境協定締結については、自主測定支援策の実施や取組内容の周知など、締結事業者数の維持・拡大を進めてきたが、経済状況の悪化などから環境協定の締結事業者が増えていない。

【今後の方向性】

- ・ 良好な生活環境を保全するため、引き続き、大気や水などの保全を図るとともに、事業者と連携した環境保全の取組を更に進めていく。

環境分野5 人づくり

【状況】

- ・ 地域での広報活動や南図書館と連携したイベントの実施により、環境学習センターで行われる環境講座の参加者数が目標数を達成するなど、市民の環境配慮意識が向上している。

【今後の方向性】

- ・ 環境配慮行動を推進するため、更なる環境教育・環境学習の推進を図ることにより、市民や事業者による自発的な行動を促進していく。